

【アイデア】

整理番号	提案委員	内容	事業区分	担当部会	担当課	担当課の考え方
1		<p>【地域包括ケアシステム構築の研究・交流会】</p> <p>平成29年4月から、要支援1・2の方たちへの支援が介護保険から新潟市の総合事業に移されます。団塊世代が75歳以上となる平成35年までに、地域の高齢者の医療・介護・生活支援を地域で行える地域包括ケアシステムを構築することが求められています。しかし、この制度は国民に十分理解されていませんし、地域でも様々な課題に直面しています。地域に要支援1・2の方、要介護1・2の方(2年後にはこの方たちも市の総合事業に移される方向)がどのくらいおられるのか、それに対し医療・介護の事業所がどのくらいあり、地域にはどのようなことが求められるのか、どのように取組んでいけばいいのかが交流できればと思います。区役所のリードで、全自治会を対象にして、学習・交流できるような会議を、数年を視野において立ち上げて欲しい。あわせて、地域の茶の間交流会などもしていただければと思います。</p>	区企画	第2部会	健康福祉課	
2		<p>【西区産業振興会議の設立】</p> <p>西区の産業を全体的に活性化していくためには、商店街や同業組合など事業者、学識経験者、地域住民が集まって知恵を出し合うことが必要です。新潟市全体でも、中小企業振興条例が市議員発議で制定されました。しかし、新潟市自身があまり積極的ではないという印象を受けました。それを受けて作られた振興策も、表面をさらっと撫でたもののように感じられました。中心市街地活性化計画も、2回にわたって行われたのですが成功していません。どんな施策も関係者の「知恵の共同化」が必要です。西区が先陣をきって、産業振興会議を立ち上げて欲しいと思います。</p>	区企画	第3部会	農政商工課	
3	坂井委員	<p>【私道除雪問題検討事業】</p> <p>私道の除雪問題は、過去の自治協の会議でも様々な議論がされました。しかし、区側の主張＝道路法で決められた道路(市道認定された道路)を除雪することが原則であり、これを動かしてはならないと考えている。自治協委員の主張＝生活に使っている道路であり、何とかして少しずつでも除雪路線を増やして欲しい。このようにかみ合っておらず、少しずつでも前進していく方向にはなっていません。そもそもの原因は、街の発展に比べて都市計画が遅れ、区画整理が行われないうちに住宅が建てられて、あちこちで行き止まりの道ができてしまったことが原因です。そして「行き止まりの道は市道編入しない」という市の方針があります。住民からすれば私道であっても道路にしか使えないのだから、市道にしてもらってもいいのです。上記のような原因から、かなり長い私道が数多くあって、除雪に困っているのです。</p> <p>区の職員は、「自治会で業者に頼んでください」といいますが、建設業者が減少し除雪能力が落ちていることもあって、ほとんどとりあってくれません。区の建設課の方の話だと、昼間私道を除雪していると、「自宅の前に雪を置いた」と苦情が出て能率が上がらずやりたくないと言っているとのこと。業者からすると、除雪は労力の割に収益があがらないので、あまりやりたくない仕事なのです。入札の際のランク付けの点数に係わるので、市に頼まれれば仕方なくやるのです。</p> <p>しかし、現実に区民が困っているのだから、区役所としても解決に労を尽くさなければいけないのではないのでしょうか。建設業者への依頼、手押し除雪機による自治会や有償での農家の方などによる除雪、融雪道路の検討、中学校の冬の体育の時間や大雪の際は地域と協力ということで、近所の除雪など検討できないでしょうか。一万円いる大学生にアルバイトとして力を活用できないか等。自治会役員や様々な方たちも巻き込んでの検討会をたちあげられないでしょうか。これは主に防災にかかわる問題ですが、福祉や教育の問題でもあり、交通の問題でもあります。自治協が全部会をあげて検討する必要があると思います。今この点では、区事業として行うコンセンサスが得られない可能性が強いので、自治協提案事業としたいと思っています。新潟市よりもはるかに多い豪雪地帯もあるので、他地域の取組みも調べてみたらどうでしょうか。</p>	自治協提案	第1部会	建設課	
4		<p>【西区産業活性化講演会】</p> <p>西区の産業振興を考えていく上で、とりあえず次期は、産業活性化についての講演会を開催します。その後、産業振興会議を立ち上げ、農業・商業・製造業・建設業・サービス業などの部会を設置し、数年かけて検討していったらどうでしょうか。</p> <p>出発として、地域経済学会の前会長であった岡田智弘京都大学大学院教授と塩川酒造と一緒に清酒「新雪物語」を作っておられる伊藤亮司新潟大学農学部助教授の講演会の開催を自治協提案事業として行いたい。多くの業者団体、地域振興に興味がある方、大学生に広く案内します。お二人とも地域経済には大変深い造詣をもっておられます。その後の西区の産業振興策の策定にも力を貸していただけたらと思います。</p>	自治協提案	第3部会	農政商工課	
5	大谷一男委員	<p>【みどり森の運動公園の緑化を目指した記念植樹】</p> <p>みどり森の運動公園の緑化を目指した記念植樹を提案したい。行政と市民が一体となった緑化運動案である。市は計画的に継続的に植樹地を市民に提供する。一本一本の植樹には、父の木、母の木、私の木といった親子のふれあい植樹や、入学、卒業、就職、成人、結婚など人生の節目、あるいは永遠の思い出としての植樹など種々考えられる。</p> <p>多くの人々の記念植樹によって緑で覆われた憩いの森という情景を夢みたいものである。誠意があれば、この緑化運動は成功するだろうし、企業や様々な団体の周年事業の記念植樹も期待できるのではないかと。まずは記念植樹の制度仕組みづくりから始めて欲しいものである。</p>	区企画	第1部会	建設課	
6		<p>【水戸際池の整備】</p> <p>西区木場と金巻の境界をまたいで、天明年間(1781～1788)の破堤と文久3年(1863)の破堤によって生じた池(治水地形分類図の地形要素の名称として落堀と称しています)があります。この池の名称は、①水戸際池②宮池③山佐池④金巻池⑤木場池と様々な名称で呼ばれています(以下、水戸際池という)。</p> <p>水戸際池は、黒埼南観光史跡めぐりのボランティアガイドのコースにも選定されて、今後ますます注目されること必定です。市民の水辺空間の宝として、池のほとりに市民が憩う水辺の緑地を整備して欲しいものである。</p> <p>また、トイレ・あずまや・池の由来を記した看板もあるとなお好都合である。さらに、へらぶな用の固定釣り台も統一感を以って整備更新して欲しいものである。</p>	区企画	第1部会	建設課	

整理番号	提案委員	内容	事業区分	担当部会	担当課	担当課の考え方
7	佐野委員	<p>【青空健康づくりミニプロジェクト】</p> <p>健康寿命を延ばすことに関心が高まる昨今、住民ニーズを探ると、身近で手軽にできる運動が求められていることが分かります。設備が整った会場へ出向く講習会も、もちろん必要ですが、近くの公園を利用したヨガ、ストレッチなどの講習会、ラジオ体操巡回講座などのミニ講座は、正にお手軽です。自家用車、公共交通を利用してわざわざ会場へ行くことが面倒という層にも、受け入れやすいことでしょう。近隣のコミュニケーションにも役立ちます。</p> <p>手法としては、出前講座のようなリクエスト型と主催事業としての直接普及型を並行して行うと効果的です。地域で講師をしている方に委託することも可能だと思います。健康づくりを目指す「西区健康応援事業」のなかに、是非このプロジェクトを取り入れていただきたいと思います。</p>	区企画	第2部会	健康福祉課	

【ご意見】

整理番号	提案委員	内容	事業区分	担当部会	担当課	担当課の考え方
1		<p>【「区企画事業」と「自治協提案事業」の関係を明確に】</p> <p>「区企画事業」と「自治協提案事業」の関係を明確にする必要があるのではないのでしょうか。アートフェスティバルは大変いい企画で、これからも継続して行われる事業だと思います。西区の学校やサークル、文化団体が一堂に会す、学術と文化が香る西区にふさわしい企画です。これからもずーっと行うのであれば、区企画事業にならないのでしょうか。自治協提案事業として継続していると、毎年200万円近く＝自治協提案事業の予算500万円の40%＝が、すでに毎年行く先が決まってしまうことになり、なかなか新しい事業に取組めません。区企画事業になっても、現在のように自治協で話し合い、すすめていくことができるのではないのでしょうか。</p>	区企画	全部会	地域課 総務課	
2	坂井委員	<p>【地域公共交通検討会議の再開を】</p> <p>平成26年度第9回西区自治協議会に提出された「平成26年度第2回西区公共交通検討会議・要旨」において、「地域公共交通検討会議は継続して開催していただきたい」とされていました。BRTが導入され、問題点を考慮・改善した春ダイヤに入りました。ここであらためて、西区内の公共交通の検討が必要と思います。検討会議に参加していた自治協委員は9名中6名が自治協委員でなくなっています。新しい人を補充して、再開して欲しい。</p>	区企画	第3部会	地域課	
3		<p>【商店街活性化研究・実践事業の継続・発展】</p> <p>平成28年度の自治協提案事業で、内野町商店街の活性化策が新潟大学、国際情報大学の協力を得て検討されています。今の進行を伺うと8月までに一定の計画を出し、再度自治協の第3部会で話し合い、その後最終的な施策を決定する流れのようです。こんな簡単な取組で商店街は活性化されることはありません。様々な事業を考え、商店街や地域住民と協働で実践、様々な失敗や成功を繰り返して、商店街の人たちや地域の人たちを変えていく息長い取組が必要です。少し先が見えてくるまでに4～5年かかります。本当にしっかりしたものになるには10年くらい必要です。そしてそれから、状況の変化に対応した取組が求められるのです。大学生は4年で入れ替わってしまいますので、継続的なものにするために教員の参加が必要なのです。</p> <p>この取組は、商店街が変わってもらう必要がありますが、大学にも変わってもらう、そして我々公共部門も変化する必要があるのです。大学も地域との関わりで、地域課題を解決する方向に変わらないと大学自身の存在意識が問われます。我々にも地域課題を絶対に解決するぞという固い覚悟が求められます。大学側には是非参加・研究したいと思ってもらえる、少し大きな研究費が出せないのでしょうか。新潟市の経済部の様々な施策も利用したい。</p> <p>あわせて、黒埼の商店街の活性化策の検討に入りたいものです。</p>	自治協提案	第3部会	農政商工課	
4	佐野委員	<p>【スポーツ鬼ごっこ普及のための継続的な連携取組みについて】</p> <p>昨年度のライセンス取得講習会・見学会(体験会)は、各機関が協力し、自治協が協働の中心となって活動し、大いなる成果があったと思います。しかし、普及活動は単年度で終わることなく継続的に、かつ関わる団体が連携を取って進める必要があります。今年度は事業を主催した自治協、教育委員会主導のふれあいスクール、スポーツ推進委員会を中心としたスポーツ振興会、普及活動の窓口としてのoni base niigataの活動が調和し、西区のほとんどの地域で体験会を実施しました。更に浸透させるにはアフターケアが重要で、どうやってステップアップしていくかが課題です。地域の人材を育て、また地域間の交流活動を行うことによって定着させなければなりません。長い目で見て普及支援することが、きっかけづくりに関わった自治協の役割ではないかと思えます。</p>	自治協提案	第2部会	地域課	
5	庄山委員	<p>【スポーツ鬼ごっこ普及のための取組みについて ほか】</p> <p>これまで開催してきた事業のラインナップを拝見し、多種多様なイベント、活動があり、驚くとともに携わる方々への感謝の意でいっぱいになりました。正直、知らないことがたくさんあり、恥ずかしく思いました。市報や学校からのお手紙をしっかりと見ていないと、また、公民館などに行かないとわからないこと、などが原因なのかと思うと、今後の生活の観点も変わってきます。知って、興味を持ち、参加して、楽しむことで、また興味を持って、友達を誘って、参加、などという連鎖が、たくさん地域の人をつなげ、区の活性化になるのではと思いました。正直、なかなか自分以外、もしくは、家族以外に目がいかない、人任せ、興味を持っていないという現在の風潮もあると思います。お子さんをお持ちなら、学校を通じた発信、例えば、スポーツ鬼ごっこを、体育や学級活動で取り組んで頂くような働きかけで、そういった区の活動を知る親御さんもいるのではないのでしょうか。</p> <p>地域と自分、を身近に感じられる時は、ゴミステーションの掃除だったり、回覧板を回したり、などというくらいの方々が多いいのではないのでしょうか…しっかり避難場所を知ってる方はもしかしたら少ないかもしれません。そういった中、災害の時はここへ行くと安心、または、この地域だとういった行動、対応が有効、といったお考えはもちろん地域地域でしっかりあると思います。その、文章や、地図などの冊子が家の中にあると、有り難いですし、小さいお子さんがいる方やお体の不自由な方のサポートも地域で見守る体制になっていたり、また、なかなか地域の活動に参加しづらいような一人暮らしの若い方たちも、しっかり避難場所や対応を知ること、日々安心感がある生活を営めると思えます。加えて、災害グッズの紹介や斡旋、西区のお店でそのグッズが用意できたりすると助かります。</p>	自治協提案	第2部会	地域課 教育支援センター 総務課	